

第3節 白石構内(白石遺跡)の調査

1. 教育学部附属山口中学校防球ネット新設工事に伴う立会調査

調査地区 白石構内

調査面積 約1.3㎡

調査期間 平成27年12月24日

調査担当 田畑直彦

調査結果

教育学部附属山口中学校で防球ネットの新設工事が計画された。地下掘削は支柱を設置する3箇所(A～C地点 図56)をボーリングで掘削するもので、掘削後に立会調査を実施した。

A地点では現地表下43cmまでが表土・造成土で、以下43～70cmで弥生時代以降の遺構面形成層とみられる灰色(7.5Y5/1)シルトを検出した。現地表下70～230cmでは詳細は不明確であったが、灰オリーブ色(7.5Y4/2)粗砂・礫の互層堆積を確認した(写真103)。B地点では現地表下38cmまでが表土・造成土で、以下38～72cmで弥生時代以降の遺構面形成層とみられる灰色(7.5Y5/1)シルトを検出した。現地表下72～275cmでは詳細は不明確であったが、にぶい赤褐色(5YR4/4)粗砂・礫の互層を確認した(写真104)。C地点では現地表下280cmまで掘削を行ったが、樹木の根による攪乱が著しく、湧水もあったため、明確な層位が確認できなかった。

以上の結果、埋蔵文化財の保護に支障は生じないことを確認できた。

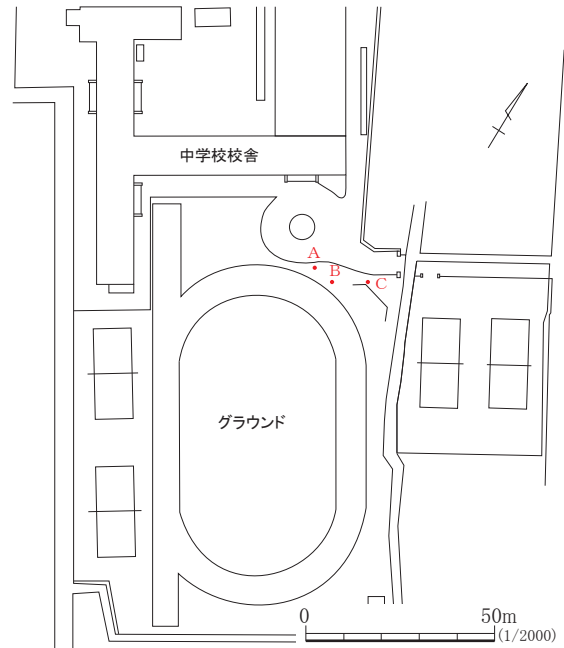


図 56 調査区位置図



写真 103 A地点土層断面 (南から)



写真 104 B地点土層断面 (南から)

2. 教育学部附属山口小学校ガス管交換工事に伴う立会調査

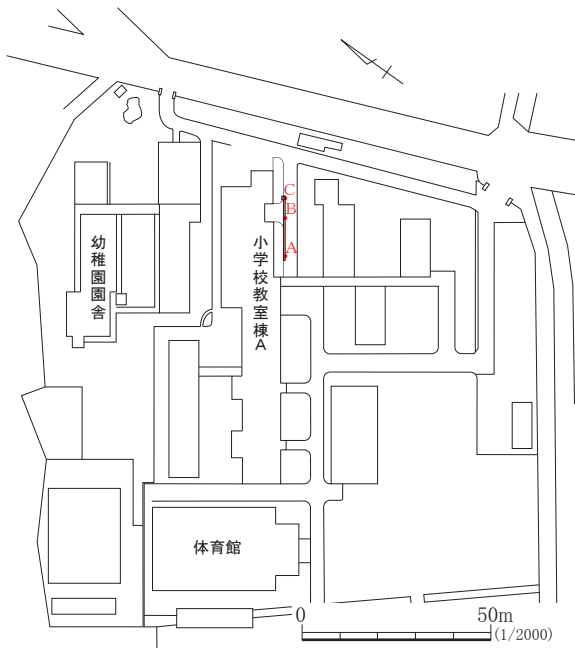


図 57 調査区位置図

調査地区 白石構内

調査面積 約8㎡

調査期間 平成27年12月29日

調査担当 田畑直彦

調査結果

教育学部附属山口小学校でガス漏れが発生し、教室棟Aの南東側でガス管交換工事を行うことになったため(図57)、緊急に立会調査を実施した。

A地点とその周辺では現地表下62cmまで掘削が行われたが、全て造成土の範囲内であった。B地点では現地表下49cmまでが表土・造成土で、以下49～60cmで河川埋土の可能性がある緑灰色(7.5GY6/1)シルトを検出した。C地点では現地表下49cmまでが表土・造成土で、以下49～63cmで弥生時代以降の遺構面形成層とみられるオリーブ黄色(5Y6/3)シルト、63～71cmでオリーブ灰色(2.5GY6/1)シルトを検出した(写真106)。また、オリーブ黄色シルトを検出面とする溝もしくは河川を確認した。検出幅は約70cmで、埋土は明青灰色(5B7/1)シルトと灰色(N6/0)シルトのブロック土、灰色(N6/0)粗砂、オリーブ灰色(2.5GY6/1)シルト・粗砂である。最大深度は約20cmであったが、遺物は出土しなかった。

以上の結果、調査区内は削平が著しく、埋蔵文化財に支障はなかったが、B・C地点周辺では溝もしくは河川が存在する可能性が高く、埋蔵文化財の保護に注意が必要である。



写真 105 調査区全景 (南西から)



写真 106 C地点土層断面 (南東から)